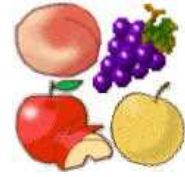




平成28年度 果樹情報 第10号



(平成28年8月5日)

福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (7月後半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると4半旬が24.4℃で0.8℃高く、5半旬が21.3℃で3.1℃低く、6半旬が25.7℃で0.3℃高く経過しました。
この期間の降水量は3.0mmで平年の5%でした。

2 土壌の水分状況

8月1日における土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmから深さ60cmで2.9であり、かなり乾燥状態にあります。

3 生育概況

(1) 果実肥大 (8月1日現在)

もも：暦日比較では、「ゆうぞら」は縦径121%、側径127%と平年より大きく、満開後日数による比較でも、平年より大きい状況です。

なし：暦日比較では、「幸水」は縦径116%、横径118%と平年より大きく、「豊水」は縦径118%、横径123%と平年より大きい状況です。満開後日数による比較でも、両品種ともに平年より大きい状況です。

りんご：暦日比較では、「つがる」は縦径103%、横径107%で平年よりやや大きく、「ふじ」は縦径109%、横径114%と平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「つがる」が平年並で、「ふじ」は平年より大きい状況です。

表1 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所8月1日調査)

果実肥大	もも		なし				りんご			
	ゆうぞら		幸水		豊水		つがる		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	67.5	69.7	61.4	75.9	62.4	71.8	67.6	80.3	64.7	74.3
平年比(%)	121	127	116	118	118	123	103	107	109	114

(2) もも

ア 早生～中生品種の収穫期と果実品質

「暁星」の収穫盛は7月18日で平年より9日早まりました。果実重は214gと平年並、RM示度は12.6と平年並でした。

「あかつき」の収穫始は7月21日、収穫盛は7月24日で平年より12日早まりました。果実重は257gとほぼ平年並、RM示度は13.0と平年よりやや高い品質でした。

表2 ももの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			RM示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/ 8	7/ 2	7/ 4	7/11	7/ 4	7/ 7	7/15	7/ 6	263	261	289	10.0	11.3	11.4
日川白鳳	7/ 7	7/16	7/ 6	7/11	7/19	7/ 9	7/15	7/22	7/13	248	230	257	10.6	10.7	11.6
暁星	7/15	7/23	7/13	7/18	7/27	7/16	7/22	7/31	7/19	214	215	235	12.6	12.7	14.5
あかつき	7/21	8/ 2	7/21	7/24	8/ 5	7/24	7/28	8/10	7/30	257	265	270	13.0	12.6	13.0
まどか	未	8/10	8/ 3	未	8/14	8/ 6	未	8/19	8/10	未	333	357	未	13.2	14.3
川中島白桃	未	8/24	8/13	未	8/27	8/16	未	8/31	8/20	未	333	385	未	12.8	13.3
ゆうぞら	未	8/31	8/18	未	9/ 4	8/21	未	9/ 9	8/27	未	324	346	未	12.7	12.9

※ 未は未確定

(3) なし

ア 「幸水」の裂果

「幸水」の裂果発生率は0.8%（平年3.9%）で、平年より低い状況でした（平年値：1990～2015年の平均）。

イ 「幸水」の成熟経過

満開後100日（7月28日）における成熟調査の結果は、果実硬度が9.8ポンド、RM示度が10.6とほぼ平年並ですが、果皮中クロロフィル含量が $12.2 \mu\text{g}/\text{cm}^2$ と平年値をやや下回っています。

果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は、平年値を上回っており、現時点では果肉先熟の状況ではありません。

ウ 「幸水」の収穫予測

8月1日現在、果樹研究所における平均気温と降水量をもとにしたDVR予測プログラムによると、「幸水」の収穫盛期は平年より7日早い8月24日と予想されます。

表3 「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			RM示度			果皮中クロロフィル含量		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
100	9.8	9.7	10.1	1.2	1.3	1.3	10.6	10.5	10.1	12.2	13.5	13.2

※ 平年値：1991～2015年、果皮中クロロフィル含量： $\mu\text{g}/\text{cm}^2$

表4 「幸水」の収穫予測（収穫盛期）（果樹研究所 8月1日現在）

DVR予測	平年	昨年
8月24日	8月31日	8月23日

(4) りんご

ア 「つがる」の成熟状況

満開後96日（7月28日）における「つがる」の果実品質は、硬度が14.6ポンド、デンプン指数は1.3、RM示度は9.8、リンゴ酸は0.32%です。

暦日で比較すると成熟は進んでいるが、生育日数では果肉硬度がやや低く、デンプン指数は平年並に推移し、クロロフィル含量がやや多い状況です。

(5) ぶどう

ア 「巨峰」の成熟状況

無核栽培における満開後60日（8月1日）の成熟状況は、RM示度13.7、酒石酸含量1.30でした。

イ 「あづましずく」の成熟状況

満開後62日（8月1日）の成熟状況（長梢栽培）は、RM示度17.5、酒石酸含量0.62、果実カラーチャート値9.0でした。

4 栽培上の留意点

(1) 土壌の水管理

福島地方气象台によれば、本県は7月29日頃に梅雨明けしたと見られます。本年は6月の降水量が73.0mm（平年比61%）と少なく、7月の降水量も29.5mm（平年比19%）とかなり少ない傾向にあることから、今後、降水量が少なく土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を実施しましょう。

ア かん水

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施します。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

ただし、ももでは収穫5～7日前以降のかん水は糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合は、草刈りしない場合の約半分とされています)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) もも

ア 中生種の収穫

果樹研究所内の「あかつき」の収穫期は平年より12～13日早く経過し、現在、中生種「まだか」が収穫直前となっている。「あかつき」の収穫後半において軽度のみつ症が散見されていることから、今後収穫される品種においては、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように留意しましょう。

イ 晩生種の収穫前管理

中生種の収穫時期から推定すると、晩生種の収穫期も平年より早まることが予想されます。今後、「川中島白桃」「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。また、有袋栽培では、今後の天候が曇天となる場合に除袋の遅れにより着色不良となることがあるため、着色管理作業も計画的に行いましょう。

(3) なし

ア 修正摘果

「幸水」の裂果期は終了したので、早急に修正摘果を実施しましょう。摘果は、裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が白い果実(肥大が停滞しやすい)及び満開後100日頃の横径が60mm未満の小さな果実を整理します。過度の摘果は収量に影響するので控えましょう。

「豊水」は満開後100日頃を目安に小玉果と変形果を摘果しましょう。

(4) りんご

ア 落果防止剤の散布

「つがる」の落果防止剤としてストップポール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日25日前に散布しましょう。平年より生育が進んでいるので、遅れないよう注意しましょう。

イ 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施しますが、日焼け果の多発が懸念される場合は、直射日光の当たりにくい部位から行い、日焼け果の発生を確認しながら徐々に実施しましょう。地色の緑色が強い時期に早めに葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意しましょう。

ウ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょう。

(5) ぶどう

ア 摘心（長梢せん定栽培）

一定の葉数が確保された8月以降の摘心は、果実品質の向上と新梢の充実が期待できません。8月上旬になっても伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安にそれより先を摘心します。摘心を実施した後も棚下が暗い場合は、新梢の間引きを行いましょう。この際、間引く本数は必要最小限にとどめましょう。また、副梢の摘心も同時に行います。摘心および停止した新梢から発生した勢力の強い副梢は、基部の2～3葉を残して摘心しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご褐斑病、輪紋病、炭疽病

これらの病害の発生が懸念される園地では、これらに効果がある薬剤を十分量散布しましょう。なお、炭疽病の発生を抑制するために、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物を除去しましょう。

イ もも灰星病・ホモプシス腐敗病

灰星病については天候の推移に注意しながら、灰星病防除剤を使用しましょう。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意しましょう。晩生種に対してはホモプシス腐敗病にも効果のある薬剤を選択し、十分量散布しましょう。

ウ なし黒星病

7月下旬の果実における発生ほ場割合は、中通りでは平年並ですが、浜通りでは平年よりやや高い状況にあります（7月29日付け病虫害防除情報）。「幸水」では8月上旬頃までに感染した果実が収穫期に発病するおそれがあるため注意が必要です。

本病の発生が見られる園において、散布間隔が前回の散布から10日程度あいている場合は、ただちに黒星病に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意しましょう。

(2) 虫 害

ア モモノゴマダラノメイガ

発生が多い地域では中晩生種を対象に8月中～下旬に防除を行いましょう。防除を実施した後も発生が続く場合は、前回の散布から10日後にも防除しましょう。本種はクリやカキなども加害するため、近隣にクリ園やカキ園がある場合は、それらに対しても防除を行いましょう。

イ モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代成虫の発生盛期は8月2半旬頃であると予想され、第5世代幼虫の防除適期は8月3半旬頃と推定されます。本種の発生には、防除が十分でない花もも園や放任園などが影響していると考えられるのでこれらの防除や伐採を検討しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代成虫の発生盛期は8月3半旬頃と予想され、第4世代幼虫の防除適期は8月4半旬頃と推定されます。本種の第3世代以降はなし果実への寄生が増加し、また、中生種以降のももで果実被害が発生する可能性があるため、例年、なしやももで果実被害が多い場合やももの芯折れが多い地域では、第3世代以降に対して必ず防除を実施しましょう。

エ カメムシ類

新成虫が発生する時期となっており、山間及び山沿いの果樹園ではカメムシ類の被害を受けやすいので、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょ。う。

オ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃です。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょ。う。

カ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょ。う。

表5 主要チョウ目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成28年8月1日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 成虫盛期	第5世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月9日	8月12日	8月14日	8月20日
平年並	8月9日	8月13日	8月15日	8月21日
2℃低い	8月11日	8月15日	8月18日	8月26日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 7月20日、ナシヒメシンクイ 7月19日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。う。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>